

減災情報共有プラットフォームの 開発

「危機管理対応情報共有技術による減災対策」
第2回シンポジウム - プロジェクト研究成果報告1
防災科学技術研究所 EDM 川崎ラボラトリー
浦山利博 H18.1.11

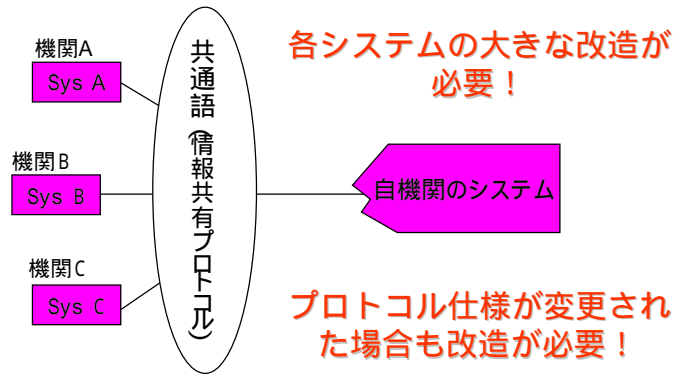
1. 背景と目的

- 現状:
- 個別の防災情報システム構築
 - FAX, メモ, 壁新聞による情報共有
- 目的:
- 被災時の時々刻々変化する状況の記述 情報の時空間記述
 - 複数機関の情報共有と協調作業の実現 公開構造による記述
 - 劣悪な環境下での迅速な情報処理 効率的なデータ記述
- 減災情報共有プラットフォームの開発
- 課題:
- 共通語による情報共有 - 減災情報共有プロトコル(OGC/WFS) -
 - 減災担い手の言語(システム)による情報共有 - 自律分散 -
- 効果:
- 応急, 復旧対応の迅速化
 - 被害拡大の防止
 - 被災者支援・生活再建の迅速化

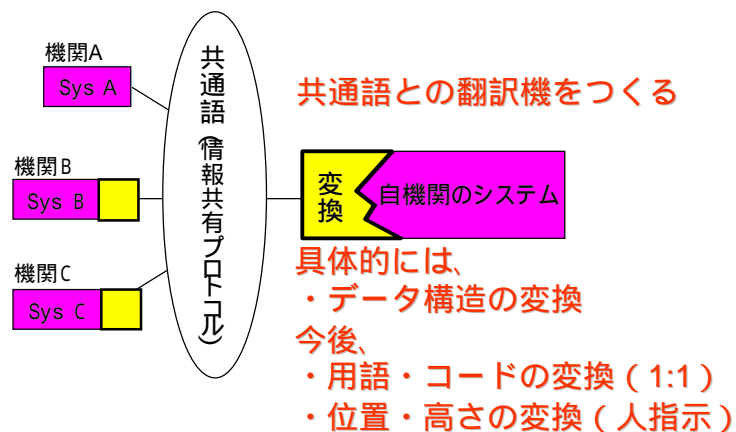
2. 情報共有プラットフォーム(広義)

プロトコルを共有するシステム群

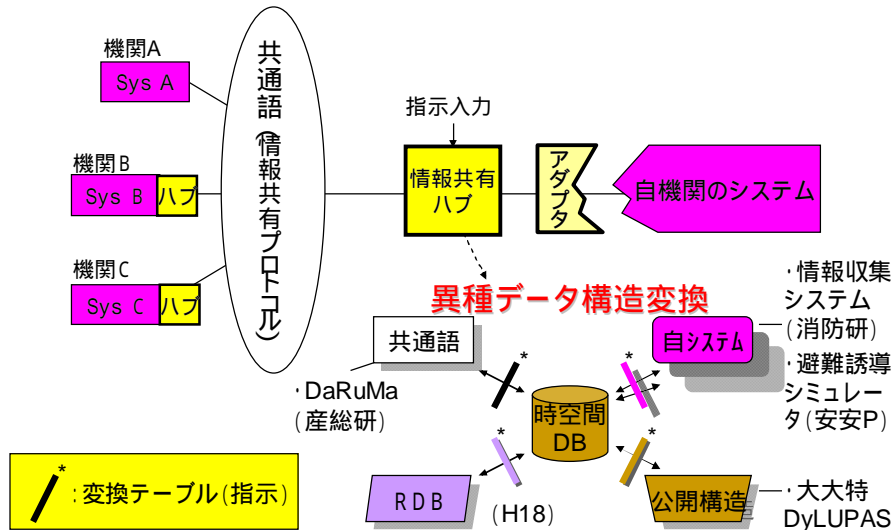
情報共有プラットフォームの形成



3. 情報共有プラットフォーム(狭義)



4. 翻訳機 - 情報共有ハブ -



防災科研 EDM 川崎ラボラトリー

5

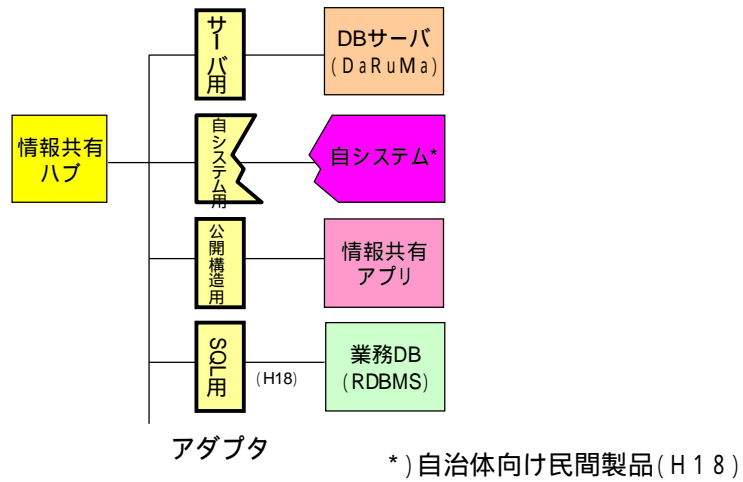
5. ユーザシステムの補完・補助 - 情報共有アプリケーション -



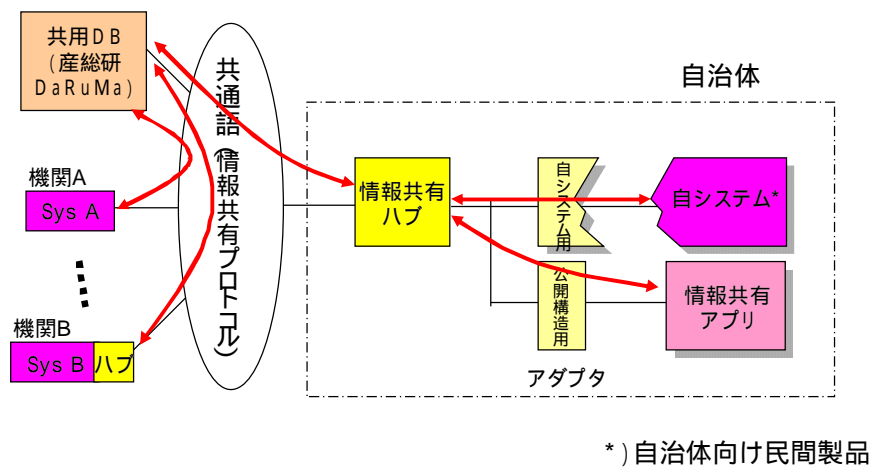
防災科研 EDM 川崎ラボラトリー

6

6. アダプタの品揃え



7. 実証実験の構成



8. H18年度の完成イメージ

